

秋田市で働く女性の**ステップアップ**を応援します

自分らしいキャリアを描こう!

キャリアデザインセミナー
〈リーダーコース・中堅コース〉

市内企業で働く女性がチームマネジメントやコミュニケーション等について学びながら、自分の強みや自分らしいリーダー像を見つけるためのキャリア形成セミナーです。多様な業種で働く女性同士のネットワークづくりにつなげます。

【担当】秋田市生活総務課女性活躍推進担当 TEL.018-888-5650

キャリアデザインカフェ

仕事と家庭の両立や、ライフイベントによってキャリアに不安を抱える女性を対象としたスキルアップ講座です。仕事や起業に役立つスキルを学びながら、自分らしい働き方について一緒に考えます。

なでしこ就労支援事業

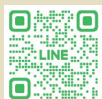
求職中や非正規雇用等の女性を対象に、デジタルスキル習得支援講座や市内企業とのマッチングイベントを開催し、キャリアアップや起業を目指す女性を支援します。

【担当】秋田市企業立地雇用課
雇用労働担当
TEL.018-888-5734

仕事を見つけよう!

ハローワークプラザアトリオン
〈マザーズコーナー秋田〉

子育てや介護をしながら働きたい方のための相談窓口です。ベビーカーも入れるゆったり相談スペースとキッズコーナーもあるので、お子様連れでも安心してご相談いただけます。



マザーズコーナー秋田 LINE
@278uigbc

秋田市中通二丁目3-8 アトリオンビル3階
TEL.018-836-9001

起業にチャレンジ!

チャレンジオフィスあきた

経営の悩みについて専門職員に無料で相談いただけます。起業に関するイベント・セミナー等も開催しています。



アキチャレ
(秋田市創業支援ポータルサイト)
<https://www.akitachallenge.jp>

秋田市中通二丁目2-32 山ニビル7階
TEL.018-827-5868

企業の働きやすい職場づくりをサポート!

なでしこ環境整備補助金

女性の働きやすい職場づくりや仕事や子育ての両立支援に取り組む企業に対して、子育てスペースや更衣室、トイレなどの施設整備費用を補助します。

【担当】秋田市企業立地雇用課
雇用労働担当
TEL.018-888-5734

キャリアデザインセミナー
〈人材マネジメントコース〉

市内企業の経営者や管理職等を対象としたセミナーを開催。多様性を活かし、女性も男性も個性や能力を発揮できる職場づくりを考えます。

【担当】秋田市生活総務課女性活躍推進担当 TEL.018-888-5650

男女共生出張講座

市内企業や団体等の研修に講師を派遣します。職場におけるハラスメントやアンコンシャス・バイアスをテーマに、みんながイキイキと働ける職場づくりのポイントを学びます。

【発行】秋田市生活総務課女性活躍推進担当

TEL.018-888-5650 FAX.018-888-5651

Email danjyo@city.akita.lg.jp

ホームページ



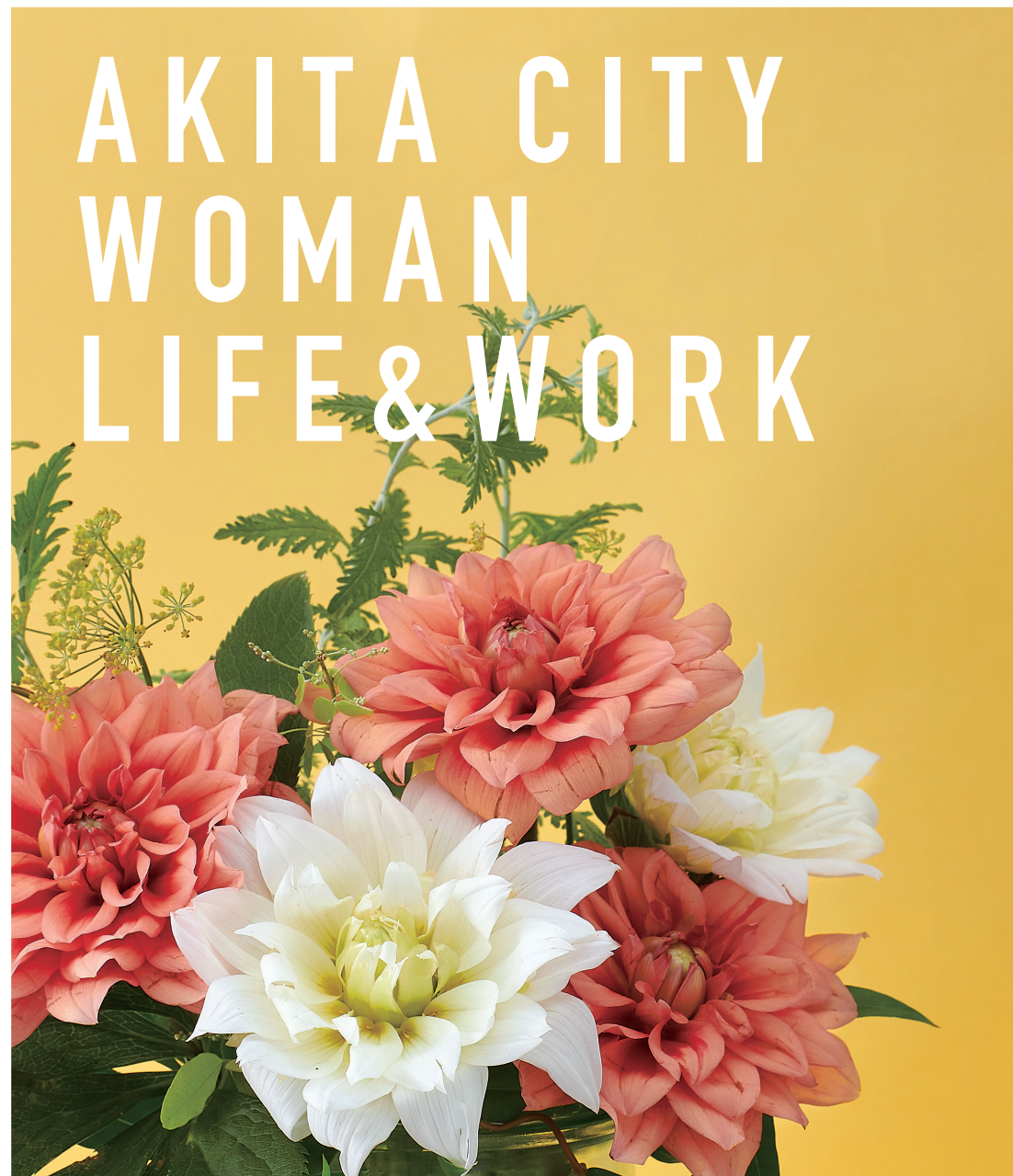
instagram
@jyokatu_kizuna_diversity

秋田市の女性活躍推進に関するイベントや取り組みを発信しています。



3YOKATU.KIZUNA.DIVERSITY

2024年10月



自分らしい生き方、働き方を描く

Akita Woman CROSS TALK

三菱マテリアル電子化成株式会社 伊勢 遥さん
株式会社ジェイテクトIT開発センター秋田 谷藤 久美さん

Akita Woman Interview

一級建築士事務所リリーアーキテクト株式会社 高橋 理徳子さん
i.cocochi chiffon(いこちシフォン) 田代 真弓さん

AKITACITY INFORMATION

秋田市で働く女性のステップアップを応援します

ダリアは、秋田市の男女共生・女性活躍推進のイメージフラワーです。「日本女性会議2016秋田」を開催するにあたり、新しい秋田の女性からの情報発信として「NAMAHAダリア」をモチーフとして活用したことに由来しています。

Akita Woman
CROSS TALK
~働く女性たちの座談会~

秋田市で働く先輩たちへ、現役大学生による働くことや生きがいについてのインタビュー。
社会で働くことへの楽しみや不安について、リアルな声を伺います！



学生インタビュー



MEGU
です

三菱マテリアル電子化成株式会社
企画管理部 人事労働グループ

伊勢 遥さん

弘前市出身。大学進学後、コンピューターの専門学校で学ぶ。IT企業や税理士法人に勤務し、前職では企業の給与計算や年末調整をアウトソーシングで担う。2021年、結婚を機に夫の出身地である秋田市に移住し、三菱マテリアル電子化成株式会社に入社

株式会社ジェイテクト
IT開発センター秋田
開発部第2開発課

谷藤 久美さん

東成瀬村出身。大学卒業後、東京でWEBシステム開発やサーバ運用保守の仕事に12年ほど携わる。「地元の秋田に帰りたい」という思いが強くなりUターンを決意し、2020年にジェイテクトIT開発センター秋田に入社

秋田大学教育文化学部
地域文化学科 4年

伊藤 芽玖さん

由利本荘市出身。大学ではドイツ語に力を入れて勉強中。地域づくりに興味・関心があり、卒業後は地方のホテル再生事業を行う会社に就職する予定



MEGU
さん

先輩達から直接お話を聞く機会をいただきありがとうございます。まず最初に、お2人は今、どのようなお仕事をされていますか？選んだきっかけも教えてください。

伊勢さん 企画管理部という部署で、働いている人をサポートする仕事をしています。給与計算や社会保険の手続きといった労務管理、社内研修、異動や採用など、担当している業務はさまざまです。大学に進学し、その後コンピューターの専門学校に入り、国家資格を二つ取得しましたが、実際に就職してみると、自分はITやものづくりには向いていないと気がきました。一方で人と関わるのが好きで「働きやすい環境をつくること」に魅力を感じるようになり、今の仕事につながりました。

谷藤さん 開発部で自動車部品の「電動パワーステアリング」に組み込むソフトウェアを開発しています。設計からプログラム作成・テストまでを担う部署のプロジェクトマネージャーです。大学では文系だったので文系の職種で就職活動をしていましたが、適性テストで「システム開発に向いている」という結果が出て、自分でも気付いていない可能性があるのかもしれないと思い、この世界に入りました。

MEGU
さん

文系や理系という壁はつくらずに、仕事を経験していけるんですね！お仕事をされていて、どんな時にやりがいを感じますか？

谷藤さん システム開発はパソコンに向かって一人黙々と作業するイメージがあるかもしれませんが、お客様やチーム内外のメンバーとコミュニケーションを取りながら進めます。協力して作業をし、納期に間に合ったときの達成感が大きいです。

伊勢さん 「こうしたらもっとみんなが楽しく働けるんじゃないかな」と考えて、工夫しながら働くことにやりがいを感じます。先日も社内のスポーツ大会を企画して、会場や景品を選びながら、私自身も楽しんでいました。

MEGU
さん

反対に、お2人はお仕事で悩んだことやくじけそうになった時はありますか。どんなふうに、乗り越えてきましたか？

Tanifuji Kumi

好きな言葉

「地道にこつこつ」

欲張らず自分なりの目標を決め「少しずつ、少しずつ」と言い聞かせて仕事をしています

谷藤さん 最初のうちはミスをして周囲に迷惑をかけてしまい、落ち込むことが多くありました。でもある時、悩んでも解決はしないということに気がきました。「同じミスは繰り返さないようにしよう」と意識しつつ、気持ちを切り替える方法を徐々に身に付けていきました。



Ise Haruka

好きな言葉

「何とかなる」

悩んで変なループに入りそうなときは「悩まない！考えて！」と思うようにしています



伊勢さん 毎月仕事の山場があるので、その時期になると「また来てしまった…」という気持ちになります。終わりが見えないような感覚は苦しいものですが、終わらない仕事はありません。大変な時は自分自身に「ゆっくり」と言い聞かせて、タスクを付箋などに書き出して心を落ち着かせています。

MEGUさん 私は悩むと周りが見えなくなることがあるので、工夫したいなと思います。お2人はこれまで働いてきた中で「こうなりたい」というロールモデルはいらっしゃいましたか？

谷藤さん 以前勤めていた会社に女性の課長がいて「その人に聞けば何でも分かる」というスペシャリストのような人でした。相談しやすい雰囲気の方だったこともあってみんなに頼られていて、自分もあんなふうに信頼される人になりたい、と思って目標にしていました。

伊勢さん 特定のロールモデルはいないのですが、同僚の「いいところ」を取り入れるようにしています。例えば、忙しい中でもきちんと挨拶をしているとか、いつもニコニコしているとか、その人が休んでも仕事が回るよう組み立てているとか…。それぞれにすごいなと感じます。

MEGUさん 私は秋田が好きで、これから地元を離れて働くことに不安があります。谷藤さんは1度、秋田を離れていますが、地元の友人や秋田とのつながりはどうなりましたか？

谷藤さん 私も秋田が大好きだったので、離れたくない気持ちはありました。幸い、今の時代は会えなくても連絡を取り合うツールがあるので、地元の友人たちとはずっとつながることができています。東京で働いていた時も、秋田出身の友人を通して新しいつながりができて、秋田の女性10人位で集まることもありました。ですから、それほど寂しさを感じることはありませんでした。

MEGUさん 秋田を離れたからこそ集まる、という面があるのかもしれないですね。伊勢さんは人事の仕事がされていますが、女性が結婚や出産等でライフステージが変わった時、どのようなサポートが必要だと思いますか？

伊勢さん これからは「時間の自由度」がある働き方が求められるのかなと思っています。仕事の内容にもよりますが、例えば在宅勤務が難しい製造業のような職場でも、勤務時間のシフトを柔軟にするなどの工夫はできると思います。私の会社には、子育てや介護をしている社員を応援するような空気があります。どんなに良い制度があっても「休みます」と言いやすい風土がなければ、使いにくいと思います。やはり周りの理解が大事です。

谷藤さん 私の会社では、フレックス制度を導入しています。一定のルールはありますが自分で勤務時間を自由に設定して時間を有効に使うことができるので、共働きの社員も働きやすいと思います。

MEGUさん ご自身のライフステージの変化に不安や葛藤はありましたか？

伊勢さん 私は青森出身で、以前は仙台の会社に在籍していました。「青森に帰るので退職したい」と会社に相談したところ、「青森で在宅勤務する方法がある」と提案してくれました。仕事自体は好きだったので働き続けられて良かったなと思います。その後、結婚を機に秋田市に移住しましたが、地元にいたい気持ちもあり迷いました。でも、夫から「あなたはどこでも生きていける」と言われて、まあその通りだな…と納得してこちらに来ることを決めました。

MEGUさん お2人は、県外で働いた経験を踏まえて、秋田で働いてよかったと感じる場所はありますか？

谷藤さん 通勤のつらさがなくなったことです。秋田



に戻ろうと思ったのは両親の近くにいたかったからです。人ごみをかき分けて片道1時間の満員電車に乗って出社し、また満員電車ですぐ帰って…それだけで平日はぐったり。そのストレスがなくなり、戻ってよかったです。

伊勢さん 仙台は公共交通機関が便利だったので「車の免許は要らない」と思っていたのですが、秋田に移住して自分の車を持ったら「車、楽しい！」と感じて。車があると移動の自由度が全然違います。私は温泉が大好きなので、車で温泉に行けることがすごく幸せです。

MEGUさん 仕事を頑張るための、リフレッシュ方法やオンとオフの切り替えはどうされていますか？

伊勢さん 私は今の会社に勤めてからゴルフを始めました。ゴルフの後は温泉に入ってストレスを全部なくしてきます。「居場所」というか「自分がいられる空間」を、いろいろなところに持っておくことをお勧めしたいです。

会社の自慢 Point!

伊勢さん 社員の仲がいいこと、「余裕」があるところかなと思います。製造業なので「安全第一」「無理をしない」ことを大切にして、こつこつ積み重ねていくような働き方になっています。ワーク・ライフ・バランスを保ちながら働けるところが魅力です。

三菱マテリアル電子化成株式会社
秋田市茨島三丁目1-6

「化学のチカラ」で、ひとつの素材から「いろいろな材料」をつくるため、製造はもちろん、化学分析や新製品の開発に取り組む化学工場。



谷藤さん 会社の基盤がしっかりしていて、安心して仕事に集中できる環境が魅力です。自分が就職を決めた理由でもありました。2017年設立の若い会社なので、社員の意見や新しい考えを柔軟に取り入れてくれているところも自慢です。

株式会社ジェイテクトIT開発センター秋田
秋田市中通四丁目2-7-3階

自動車の「曲がる」を担う部品の電動パワーステアリング。そのソフトウェア開発を担当。世界シェアトップ製品を支える先進技術を秋田から世界に発信。



学生インタビュー

MEGUさん 感想

お2人との対談を通して、継続すること、考え続けること、変わり続けることで、社会でより活躍する人材になっていけるんだと感じました。お2人が私の女性ロールモデルとして、これからの支えになると思います。ワーク・ライフ・バランスが取れていると、こんなにも素敵な笑顔で活躍できる女性になれるんだと希望が持てました。



木にこだわり

風土と調和する建築を追求



一級建築士事務所 リリーアーキテツ株式会社
代表取締役 高橋 理徳子 さん

能代市出身。2014年独立を経て、2020年一級建築士事務所リリーアーキテツ株式会社に改称。主な受賞歴にウッドデザイン賞2017「あきた文化産業施設松下」ほか、ウッドデザイン賞2019「ドライブルーツとナッツの店 木能実」、ウッドファーストあきた2023最優秀賞「LABO and CAFE YAMAMOTO」

建築という仕事に出会えた幸せ

「まちの中に建物が一つできるだけで、人の動きが、流れが変わる」。秋田市で一級建築士事務所リリーアーキテツ株式会社を営む高橋理徳子さんは、建築の魅力をこう語ります。木に囲まれた学童保



秋田市の学童保育「はらっば」

育、道の駅、カフェ。手がけた建築物は風土に溶け込みながら、その土地に新しい風を吹かせています。

木材のまち能代に生まれた高橋さんは、製材の音を聞きながら育ちました。高校卒業後はゼネコンに就職し、旅行代理店に転職。そこで国内外の建造物に触れるうち、建築に興味を抱き、東京の専門学校に進むことを決意します。「私は運よく建築というものに出会えて、好きなことを仕事にできている」と話します。

まなざしは都会から地方へ

都内の事務所で経験を重ね、帰郷したのは29歳の時。背中を押したのは建築家ピーター・ズントの存在

でした。スイスの小さな村に、風土と調和する建物を生み出して世界を虜にしたズント。「田舎の風景に美しい建築がたたずむ姿が、とても素敵だと感じました」。都会での忙しい生活に疲れを覚えたこともあり、地方に目が向いていきました。

帰郷後に結婚し、33歳で第1子を出産。子育てをしながら、一級建築士の試験勉強に励みます。この道に入った当初から独立が当たり前の目標だった高橋さんは、子育てをする中で焦りを感じることもあったそうです。「建築から離れるのが怖くて、子どもがいることはハンデだと思った時もありました」と当時を振り返ります。夫の協力もあって、空き時間は全て勉強に充て、第2子妊娠中の35歳で試験に合格。準備期間を経て、43歳で起業しました。

「子育てはハンデじゃない」

活動の柱に据えたのは木、まちづくり、子どもの空間。高橋さんの建築のルーツと言えるものです。その思いに共感した人たちが縁をつないで仕事は途切れることなく、忙しい日々を送っています。

「お客さまが喜んでくれることが励みです。良いものを作りたいし全力で期待に応えたい。一方で『もっとできたんじゃないか』という思いは常にあります。建築のことはずっと、学び続けなければいけない」と考える高橋さんですが、若い頃と比べて、今は「自分の時間」も大切にするように。「仕事から離れて、楽しむ時間を作る。そのゆとりが、新たな気づきにつながることもある」と話します。

時にハンデと感じた子育ても、建築家としての視点を豊かにしてくれました。「子どもがその家でどんな風に過ごし、育っていくのか。設計に子育ての経験が生きていると感じます」と話す高橋さんは、今後〈子どもの空間〉に一層、力を入れたいと考えています。東京での修業中、恩師に言われた「田舎に帰れ」という言葉が頭に浮かぶたび「先生に見てもらえる建築ができていくか」と自問し、建築に向き合い続けています。



スイーツ作りから生まれる仕事と生きがい

女性が輝ける場所を作りたい

秋田市泉にあるi.cocochi chiffonは、豊富な種類のシフォンケーキが人気のスイーツ店です。ここで働く10人のスタッフのほとんどは、オーナーの田代真弓さんが主催するシフォン教室の卒業生で、身につけた技術を活かして働いています。

田代さんの原点は、夫の転勤先である盛岡市のパン教室です。「家族に美味しいパンを食べさせたい」という気持ちで通いはじめた教室で、好きなことを仕事にしている多くの女性たちの姿に衝撃を受けます。「秋田でも、女性が妻や母親の役割に縛られず、自分らしさを持って輝ける場所を作りたい」という思いを抱き、形にしたのがi.cocochi chiffonです。

得意を見つけ積極的に仕事を任せろ

始めは趣味や家族のために教室に通っていた生徒たちが、技術と自信を身につけて、今は自分自身のやりがいで、お店を盛り上げています。

「人の良いところを見つけるの、得意なんです」と笑顔で話す田代さんは、イラストが得意なスタッフにお店のポップを任せると、スタッフそれぞれの個性や得意分野を活かして、積極的に仕事を任せるとしています。



「自分の判断や行動が結果に結びつく喜びがあります」と話すスタッフさん

田代さんはかつて、正社員とパート勤務をした経験を通して、立場に関係なく、全員が同じモチベーションで働くことが大切だと考えるように。店の



i.cocochi chiffon(いこちシフォン)
オーナー 田代 真弓 さん

秋田市出身、夫と高校生の子どもと3人暮らし。会社員から料理講師へ転身し、夫の転勤先である盛岡市でテレビ出演など多方面で活躍。2015年秋田市へ戻り、自宅兼工房にてパン・お菓子教室と予約制のパン販売を始める。2022年シフォンケーキと焼き菓子のお店「i.cocochi chiffon」を開店

オーナーとして、スタッフみんながプロ意識を持つことを伝えると同時に、自分の知識や経験をスタッフに提供することを惜しみません。オーナーからの信頼と期待に応えるように、スタッフが積極的にお店の改善に向けた提案をするなど、好循環が生まれています。

目指すのは「スタッフが主役の店」

仕事と家庭という優先順位の悩みには、「どちらも一番」と答える田代さん。i.cocochi chiffonは、自分のことを後回しにしてしまいがちな女性たちが、見失っていた自分自身の魅力や押し込めていた気持ちに気づき、輝きを取り戻すための場所です。田代さんの気持ちを家族も理解して、家庭のことは家族全員でサポートし合っているそうです。

人の成長を支えることに喜びを感じる田代さんの座右の銘は「利他の心」。目指しているのは、スタッフ1人1人がお店の主役になることです。

現在は、新たにパン教室のクラスを開講し、女性たちが輝き活躍できる場所をさらに増やすために、立ち止まることなく進み続けています。